にいかわ案内人養成塾(入善町)を開催

企画観光部

富山湾・黒部峡谷・越中にいかわ観光圏では域内を訪れる旅行者の２泊３日以上の滞在を目指しさまざまな事業に取り組んでいるところです。

にいかわ案内人養成塾は観光圏整備事業の一環として１月３０日(土)に富山県魚津市で開催されたのに引き続き、２月２０日(土)、富山県入善町で開催されました。

当日は「地域も知らない魅力を発掘して旅に仕立てる」と題して、千葉商科大学客員教授の川口直木氏をコーディネーターに、(株)風の旅行社営業部長の水野恭一氏を特別講師に迎えて進められました。

第一部は講演形式で進められ、水野氏の手がけたツアーを中心に旅行商品の造成について話を伺いました。

水野氏の(株)風の旅行社(風カルチャークラブ)における旅作りのコンセプトは「旅はテーマを設定し、学ぶ『講座』のイメージである」ということで、「真夜中の東京を自転車で巡る旅」、「30 種類の木を覚える旅」といったユニークなものが多いです。「旅(講座)のガイド(講師)は知識豊かな研究者や学芸員がよい」、「地域の文化財の情報を得るには地元の教育委員会を活用している」といった実際に旅行商品造成を行っている水野氏ならではの話は新鮮で興味深いものがありました。

また、「どこにでも旅の材料はある。それら単品をイメージ豊かな物語性あるものにすることが大切」、「体験型の旅はスキルの習得そのものではなくツールとして利用して地域を楽しむことを心がけている」とも語られていました。

第二部は水野氏、川口氏に後藤局長を加えてのパネルディスカッションを行い、観光圏整備事業の目的である 2 泊 3 日以上の長期滞在をめざす取り組みなどを中心に展開されました。後藤局長から、「1 泊 2 日は比較的作りやすいが長期滞在を目指す中で質を向上させるにはどうするか」という中で、第一部での「単品を物語にする」という水野氏の発言について触れ、「行かないと後悔するような旅行商品作りやタイトルの工夫が重要」、「由来を知ることで物語になる、そのためには地域を深めることが大切」、という議論になりました。

また、「北陸新幹線開通で何を狙いに降車してもらうか」という問いについて議論が進められました。開通時にあるべき姿として川口氏は「新幹線を降りたら値段付けされた多くの観光メニューが並べられ 1 つの窓口で完結するよう整えられている状態でなければならない。そこに至るまでのプロセスには議論・調整がかかるが、そのプロセスこそ地域づくりである」と述べました。最後に本日の内容を振り返り、水野氏の「旅行商品に在庫は発生しない。やってみることが大切」という言葉で締めくくりました。

当日は入善町以外からも多くの人が参加し、急遽会場を変更するほど盛況でした。パネルディスカッションにおいても会場から意見を求め講師陣が回答するなど、活発なやり取りがなされました。これを契機に、さらに地域での取り組みが活発になることを期待し、私たちも応援していきたいと考えます。